

# わくわくとしょかん

第140号(2017年早春号) 編集発行:福島市立図書館児童室 へんわ531-6551



## としょかんからのお知らせ



### ●どようびのおはなしかい●

まいしゅう どようび  
1かい じどうしつ  
ごご2じから  
4さいしょうかくせい~小学生

### ●おひざにだっこのおはなしかい●

まいつき だい3 もくようび  
1かい じどうしつ  
ごぜん10じ30ぷんから  
3さいまでのおこさんとほごしゃ保護者



### ●ファミリー映画会●

まいつき だい2 にちようび  
3かい かいぎしつ  
ごご2じから



2月

## としょかんカレンダー



3月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

□…ふくしましりつとしょかん福島市立図書館のお休みです。

○…こどもライブラリー子どもライブラリーのお休みです。

がくしゅう学習センターとしょしつ図書室については、かくとしょしつ各図書室とあにお問い合わせください。





# あたらしいほん



E (えほん)

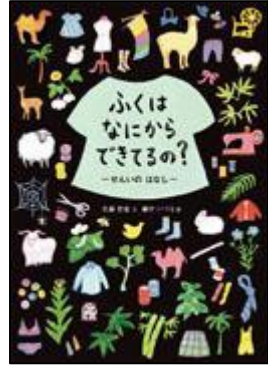
Y (よみもの)

B (そのた)

## 『ふくはなにからできてるの? —せんいのはなし』

(E アミナ)

佐藤 哲也／文 網中 いづる／絵 福音館書店



わたしたちがまいにち身につけているふく。ふくによって、色や着ごちや手ざわりがさまざまなのは、なぜでしょう？それは、いろいろな「せんい」でできているからです。ふくのことをわかりやすく学べて、もっと身近に感じられる1冊です。

## 『あかちゃんの木』 (E ブラツ)

ソフィー・ブラッコール／さく やまぐち ふみお／やく 評論社



パパとママがぼくにいったんだ。もうすぐ、ぼくのいえにあかちゃんがくるって。あかちゃんは、どこからくるんだろう？ がっこうのせんせいは「びょういんからくる」っていうし、おじいちゃんには「コウノトリがはこんでくる」っていうし…どれがほんとうなのかな？

## 『かこちゃんひとりっこ』 (E タカバ)

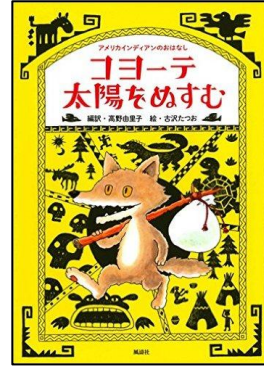
石津 ちひろ／さく 高島 那生／え 好学社



ひとりっこのかこちゃんは、きょうだいのいるこがうらやましくてなりません。ひとりっことはあそぶときもひとり、おやつするときもひとりでつまらない！でも、きょうはかこちゃんのたんじょうび。ともだちがおおぜいやってきました。

## 『コヨーテ太陽をぬすむ』 (Y995 コヨテ)

高野 由里子／編訳 古沢 たつお／絵 風濤社



アメリカンインディアンのおはなしによく出てくるコヨーテ。ずるがしこくて、こうきしんおうせいで、少しまぬけ。でも、コヨーテはインディアンたちにとって神さまのような動物なんです。そんなコヨーテがかつやくする7つのおはなしです。

## 『ぼくが消えないうちに』 (Y93 ハロル)

A. F. ハロルド／作 エミリー・グラヴェット／絵 こだま ともこ／訳 ポプラ社



ラジャーは、アマンダの想像力から生まれた「見えないお友だち」。楽しく暮らしていた2人だが、ある日「見えないお友だち」を食べてしまう恐ろしい男が現れる。男に狙われたラジャーとアマンダは逃げ出すが、途中で車にひかれてしまい…。

## 『あかりさん、どこへ行くの?』 (Y913 コンド)

近藤 尚子／作 江頭 路子／絵 フレーベル館



認知症になってしまったタケシのおばあちゃん・あかりさん。家族の顔さえも忘れてしまうあかりさんとの生活は大変で、家族は崩壊寸前。あかりさんのために、タケシにできることってなんだろう？ 認知症に向き合おうとする、家族の絆の物語。

## 『世界中からいただきます!』 (B38 ナカヤ)

中山 茂大／文 阪口 克／写真 偕成社



世界各地のご家庭に「居候」して、いっしょに食べたごはんを、おもしろおかしく紹介しています。その土地ならではの、おいしいごはん、かわったごはんとともに、くらしにまつわるおはなしもいっぱいです。

## 『からくり』 (B75 ヤスダ)

安田 真紀子／文 からくりおもちゃ塾奈良町／監修 文溪堂



糸やぜんまいをつかったしかけでうごく「からくりおもちゃ」は、子どもからお年寄りまで楽しめるさまざまな工夫がみられます。昔なつかしいおもちゃから新しいおもちゃまで、世界中で生まれたからくりがわかりやすい絵と図で紹介されています。

## 『外来生物ずかん』 (B46 ガイラ)

五箇 公一／監修 ネイチャー&サイエンス／編著 ひらの あすみ／イラスト ほるぷ出版

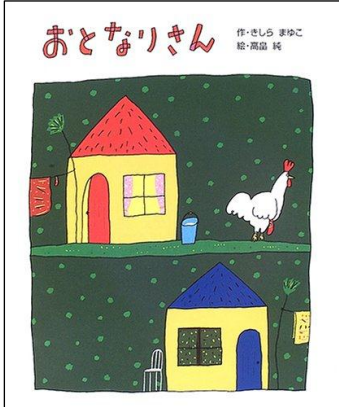


街中にあるハトも、道ばたに生えているタンポポも実は外来生物！ もとをたどれば人間が他の地域から運んできた生きものなのです。外来生物には悪いイメージがありますが、彼らも生きるのに必死なのです。生きもの好きな子なら必見の一冊です。



ことし  
今年の  
えと  
干支だよ

# とりのほん



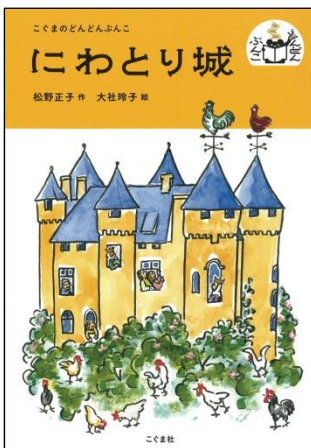
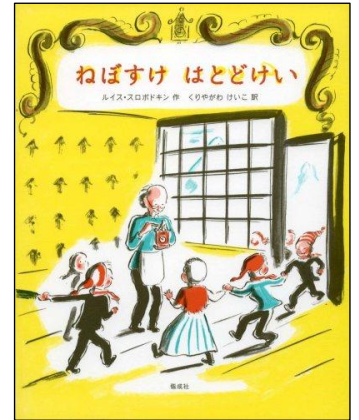
『おとなりさん』(E タカバ)  
きしら まゆこ/作 高畠 純/絵 BL 出版

にわとりの家のとなり<sup>いえ</sup>に、だれかがひっこしてきました。ところが、いくら待<sup>ま</sup>ってもだれも出<sup>で</sup>てきません。どうしてもおとなりさん<sup>あ</sup>に会いたいにわとりは手紙<sup>てがみ</sup>をかいて、となりの家<sup>いえ</sup>のドアにはりました。するとその夜、ドアが開いて、だれかが出<sup>で</sup>てきました。



『ねぼすけ はとどけい』(E スロボ)  
ルイス・スロボドキン/作 くりやがわけいこ/訳 偕成社

小さな村の時計屋<sup>ちい わら とけい や</sup>に、いつも正確な時間<sup>せいかく じかん</sup>よりおくれてとび出してくるはとどけい<sup>とけい や</sup>がありました。時計屋のおじいさんは、王さまにこのはとどけいを直<sup>なお</sup>すと約束<sup>やくそく</sup>してしまいます。ところが、調べてみてもこわれているところ<sup>しら</sup>は見<sup>み</sup>つかりません。困りはてたおじいさんが、はとが<sup>こま</sup>出てくるとびらを開けてみると…。



『にわとり城』(Y913 マツノ)  
松野正子/作 大社玲子/絵 こぐま社

のろまでまずしいけれど、心<sup>こころ</sup>のやさしいむすこがいました。一羽のめんどりと旅<sup>たび</sup>にでたむすこは、まっくらな森<sup>もり なか</sup>の中でおそろしいものに出会<sup>であ</sup>います。まものは「わしのなぞなぞに、ちゃんとこたえられたら、おまえのいのちはたすけてやる。」と言<sup>い</sup>いました。まものとむすこのなぞなぞ対決<sup>たいけつ</sup>がはじまります。



『鳥の巣いろいろ』(E スズキ)  
鈴木まもる/作・絵 偕成社

鳥<sup>とり</sup>はふしぎな形<sup>かたち</sup>の巣<sup>す</sup>をつくれます。ひょうたんみたいな形<sup>かたち</sup>のものや、にせもの入口<sup>いりぐち</sup>がついたものなど、特徴<sup>とくちょう</sup>はさまざまです。なぜそのような工夫<sup>くふう</sup>をするのでしょうか。きびしい自然<sup>しぜん</sup>の中で生きる鳥<sup>とり</sup>たちの知恵<sup>ちえ</sup>を知<sup>し</sup>ることができる絵本<sup>えほん</sup>です。

